学習三原則 —— 生活を正す　目標を持つ　継続する

育友会報

学校法人飛騨学園 高山西高等学校

〒506-0059　岐阜県高山市下林町３５３
TEL0577-32-2590/FAX0577-33-9911

発行　第50号
高山西高等学校 育友会 文化委員会
URL http://www.takanishi.ed.jp

ISO14001認証取得

「人事を尽くして天命を待つ」

育友会長　飯山 和義

日頃より、高山西高等学校の教育活動に深いご理解と温かいご協力を賜り、心より御礼申し上げます。育友会会長の飯山和義です。

まずは、保護者の皆さまに心からの感謝とねぎらいの言葉を申し上げたいと思います。社会の情勢が大きく変化し続ける中で、ご家庭を支えながら日々の暮らしを守り、また職場での責任を果たしておられる皆さまのご苦労は、計り知れないものがあると感じております。

そのようなご多忙の中にあっても、伸び盛りで思春期を迎えるお子さまの成長を見守りながら支え続けてくださっていることに、深く敬意を表します。きっと日々、さまざまな不安や課題を感じながらも、「子どものために」という一心で尽力されていることと存じます。

私たち育友会の役割は、そうしたご家庭の思いと学校の教育活動とを、しっかりとつなぎ、子どもたちがより良い環境で学び、成長していけるよう支援することにあります。保護者の皆さまには、育友会の意義をご理解いただき、ぜひ皆さまそれぞれの知恵や経験をさまざまな場面でお寄せいただけましたら、子どもたちの健全な育成につながると信じております。

さて、学年ごとに時期は異なりますが、皆さんが入学式の際に配布された「生徒心得」の中に、私が深く共感している一節があります。少し忘れている方もいるかもしれませんが、今日はその言葉を今一度振り返り、一緒に考えてみたいと思います。

人事を尽くして天命を待つ

中国の儒学者、胡寅（こいん）という人が書いたと言う。

人として出来る限りの事をしたら、あとは天命を待つだけ。この言葉を聞いて心に響けば大丈夫。きっと今日まで出来る限りの事をやってきたはず。後は、自分を信じるだけ。そして、仲間を信じるだけ。天命を待つのにおびえる事はない。しかし、天命は自分が思う通りの結果を導くとは限らない。もしも全く逆ならば、きっとそこにはまだ自分に足りない何かが隠れているだろう。回り道をしてでも拾いにいかないといけない。自信を持とう。大切なのは、人事を尽くすという部分。やるだけやったら、大きな気持ちで結果を受け止めてやろう。

生徒の皆さん、皆さんはこの学校で本当によく頑張っています。新しい学年、新しいクラス、新しい人間関係。その中で、授業に集中し、部活動に汗を流し、行事にも積極的に関わりながら、一人ひとりが自分なりのペースで一歩一歩成長してこられたことと思います。

その努力の積み重ねこそが、「人事を尽くす」ということの実践です。先ほどご紹介した「人事を尽くして天命を待つ」という言葉には、ただ運を天に任せるという意味だけではなく、「できる限りのことをやりきった者にしか味わえない、静かな覚悟と誇り」が込められていると私は感じています。

皆さんがこれから向かっていく進路、学び、挑戦の中では、きっと思い通りにいかないこともあるでしょう。頑張ったのに報われないと感じる瞬間、全力を尽くしたのに結果が伴わない時——そんな時に、自分を責めてしまいそうになるかもしれません。でも、どうか忘れないでください。結果だけで自分を測る必要はありません。努力したという事実は、誰にも奪うことはできません。そして、その経験は必ず、未来のどこかであなた自身を助けてくれる力になります。たとえ回り道に見えることでも、そこにこそ大切な学びや出会いがあることもあります。大事なのは、「自分を信じること」、そして「仲間を信じること」です。苦しいときこそ支え合い、高め合える関係が、これからの人生の宝物になるはずです。

高山西高校で過ごす時間は、人生の中でも特別な、そして一度きりのかけがえのない時期です。この貴重な日々の中で、どうか一つひとつの経験を大切に、自分自身と真剣に向き合いながら歩んでいってください。

私たち育友会も、皆さんのその歩みを心から応援しています。これから本格的な夏を迎えますが、どうぞ皆さま健康に留意され、心豊かに夏休みをお過ごしください。

「大切な生徒を伸ばしましょう」

校長　谷口 正彦

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今回は、「伸びる子の特徴」についてお話しさせていただきます。多くの教育専門家がこのテーマに触れていますが、今回はその中の一例をご紹介します。

① 素直な子ども

親や先生のアドバイスを素直に聞き入れ、実践できる子は、確実に伸びていきます。逆に、自分のやり方に固執し、周囲の助言を受け入れられない子は成長の機会を逃してしまいます。まずは、私たち大人が「素直な心」を育む関わりを心がけることが大切です。

② 失敗を恐れない子ども

難しい問題や困難に直面したとき、逃げずに立ち向かうことができる子は大きく成長します。「失敗したらどうしよう…」と不安になる子もいますが、そのようなときに、私たち大人が叱るのではなく、「次にどう活かすか」に焦点を当てた声かけをすることが重要です。

③ ポジティブに考えられる子ども

人生には誰しも、進路や選択を迫られる場面が訪れます。そうした場面で、自分の経験を活かし、人の意見を素直に聞きながら前向きに考えられる子は、大きく伸びていきます。ネガティブな気持ちで物事に取り組むと、吸収力が低下してしまいます。たった一度の人生です。前向きに、力強く生きていきましょう。

④「必ずできる」と信じられる子ども

「どうせ自分にはできない」「やっても無駄だ」といった自己否定は、成長を妨げてしまいます。

自分を信じて努力し続けられる子は、確実に力を伸ばします。

以前、本校に「医者になりたい」と強い決意を持って入学してきた生徒がいました。入学当初は医学部合格には到底及ばない学力でしたが、彼は決して諦めず、3年間懸命に勉強を続け、ついには医学部に合格しました。この経験から、「信じて努力し続けること」の大切さを、私たちも改めて学ばされました。

⑤ 地道に努力を続けられる子ども

２０２５年6月3日、〝ミスタープロ野球〟こと長嶋茂雄さんが逝去されました。私自身も少年時代、彼のプレーに魅了され、「ここで打ってほしい」という場面で打つ勝負強さ、華麗な守備・走塁、そしてヘルメットが飛ぶほどの豪快なスイングに憧れていました。

当時は「天才の長嶋、努力の王(貞治)」とも称されましたが、後に長嶋氏の周囲の関係者からは「彼ほど練習した人はいない」、「納得するまで素振りを繰り返していた」といった証言が多く寄せられています。

本人も「練習は見せるものではない。結果を出すために必要なもの」と語っています。

誰もが長嶋茂雄にはなれませんが、あのスーパースターを生んだのは、間違いなく地道な努力の積み重ねだったのです。

以上、5つの「伸びる子の特徴」をご紹介しました。

ご家庭でも、ぜひこれらを意識した声かけや関わりを心がけていただければ幸いです。

入学式でもお話ししましたが、学校と家庭は車の両輪です。共に手を携えながら、大切なお子様の成長を支えて参りましょう。

活気ある高山西高校

教頭　横田　匡司

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本校は一昨年、創立60周年を迎えました。建学の精神および「学習三原則」のもと、育友会の皆様や地域の方々のご協力をいただきながら、教職員と生徒が一丸となって、持続的な発展を遂げてまいりました。高校は、生徒が夢を実現するための出発点です。生徒たちは、自らの殻を破り、進むべき道を見出すことで大きく成長していきます。今後も、生徒一人ひとりが将来の夢の実現に向けて努力を重ね、人間として大きく成長してくれることを期待しています。今年度は１７０名の新入生を迎えました。「生徒一人ひとりが、日々の学校生活を満足して送ることができるように」を目標とし、授業はもちろん、部活動やその他の様々な活動においても、生徒の将来を見据えた指導に努めております。今後とも、保護者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

西高校らしさが詰まった これまでの学校行事

ここまでの学校行事についてご報告いたします。

1年生は、昨年度に引き続き、「乗鞍青少年交流の家」にて新入生研修を行いました。西高校について理解を深める良い機会となり、また、初めて出会う仲間との距離も縮まり、クラス内に絆が生まれはじめたように感じられました。

5月14日には、全校で高山市内研修を行いました。校外に出ることで、生徒たちは学校では見せない表情を見せてくれました。また、高山市の魅力を再発見し、地域について深く考える貴重な機会にもなりました。

6月17日には体育祭を実施しました。例年は9月に開催しておりましたが、9月は暑さが厳しく、熱中症のリスクも高まることから、今年度より6月に変更いたしました。これまでは夏休みに準備ができましたが、6月開催により準備期間が短くなるという大きな課題もありました。それでも、生徒たちは限られた時間の中で全力を尽くし、素晴らしい体育祭をつくりあげてくれました。6月9日に梅雨入りし、練習時間が十分に確保できなかったにもかかわらず、見ごたえのある行事となりました。今年度は「先生玉入れ」「借り人競争」といった新しい競技も取り入れ、より西高校らしい体育祭となりました。生徒の頑張りはもちろん、職員の支えも大きな力となりました。生徒全員が一丸となった、思い出に残る体育祭となりました。総合順位は、1位赤団、2位青団、3位黄団、応援賞の順位は1位赤団、2位青団、3位黄団でした。順位はつきましたが、どの団も甲乙つけがたい素晴らしい取り組み、成果とそして感動を残してくれました。

体育祭をご観覧いただいた保護者の皆様には、心より感謝申し上げます。皆様のご支援があってこその成功であったと実感しております。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、9月3日には西高祭(文化祭)を予定しております。体育祭同様、より良い内容になるよう企画・運営を進めてまいります。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。ぜひご来場ください。

それぞれの目標にむけ 最後まで頑張り続けた 昨年度の進路実績

ここで、昨年度の進路実績についてご報告します。本校のキャッチフレーズは「夢かなえる」です。昨年度も生徒たちが本当に努力し、「夢をかなえ」、就職・進学において以下のような実績を残すことができました。まず、就職状況についてですが、就職希望12名(うちのべ7公務員名)全員が本人の希望する企業から就職の内定をいただきました。企業の方からは、「西高校の卒業生は、仕事に対して真

面目で責任感があり、何より粘り強く頑張ってくれるので、とても信頼している。現場でも安心して任せられる人材として活躍してくれており、今後もぜひ西高校の生徒さんに来ていただきたいと思っている。」などと、よく言っていただきます。企業の方が学校に訪れてくれた際にも、大きな声で挨拶をする西高生の姿をみて「清々しくて、すばらしい。」とお褒めの言葉をいただきます。卒業生の企業での努力、日頃の生徒の頑張りが評価され、企業から求人を非常にたくさんいただいております。９月16日から始まる就職試験のために、面接対策等を開始し、就職試験対策も大詰めを迎えております。次に、進学における合格状況ですが、４年制大学１８０校（うち国公立32校）、短期大学８校、専門学校18校でした。名古屋大学、名古屋工業大学や岐阜大学医学部など国公立大学、慶應義塾大学をはじめとする私立大学にも多数合格しております。それぞれの目標にむけて、努力し合格を勝ち取ってくれました。「受験の天王山」といわれる勝負の夏のまっただ中ですが、これからの努力で大きく伸びる可能性は十分にあります。３年生の生徒諸君には、最後まで諦めることなく、より一層の努力を期待しています。

活気に満ちた部活動とその実績

令和７年度も、これまでに、ＪＯＣジュニアオリンピックカップレスリング全国大会や岐阜県高等学校総合体育大会など、数多くの大会が開催されました。各競技において、生徒たちは一戦一戦に全力で挑み、勝利を信じてプレーしました。試合に出場する選手だけでなく、出場できなかった仲間たちも懸命に声援を送り、一丸となってチームを支える姿は、まさに青春そのものであり、大変感動的な光景でした。特に３年生にとっては、部活動を通じて得た経験が、これからの人生において大きな糧となることでしょう。今後のさらなる成長を心から期待しています。

全国大会（ＪＯＣジュニアオリンピックカップ）では、３Ｋ・堤 大智くんが、全日本ジュニアレスリング選手権大会グレコローマンスタイル71kg級で見事優勝し、ブルガリアで開催される世界大会への出場を決めました。おめでとうございます。

また、岐阜県総体を勝ち抜き、インターハイには、レスリング部、アーチェリー部、剣道部、ハンドボール部が出場します。レスリング部では、個人で３Ｋ・堤 大智くん、３Ｌ・飯山 福斗くん、２Ｋ・直井 詩空さん、１Ｋ・井田 彩夏さん、アーチェリー部では、男子団体、個人で３Ｋ・長瀬 楓くん、浅尾 拓泉くん、船渡 春希くんが出場します。剣道部では、女子団体が６年連続、ハンドボール部男子も３年ぶりにインターハイへの切符を手にしました。本当におめでとうございます。全国の舞台でのさらなる活躍を期待し、全校で応援しています。大会の結果は、本校ホームページやＩｎｓｔａｇｒａｍにて随時更新していきますので、ぜひご覧ください。

東海高校総体（東海大会）にも、団体戦・個人戦とも多くの部活動が駒を進めました。以下に、東海大会に出場する団体および個人を紹介します。

【団体の部】

レスリング部（男子学校対抗戦）・剣道部男子団体（県大会 準優勝）、女子団体（県大会 優勝）・ハンドボール部男子（県大会 優勝）・男子バスケットボール部（県大会 準優勝）・アーチェリー部男子団体（県大会 優勝）

【個人の部】

《レスリング部／男子フリースタイル》65kg級：飯山 福斗（３Ｌ）〔県大会 優勝〕、71kg級：堤 大智（３Ｋ）〔県大会 優勝〕、51kg級：圓山 礼心（２Ｌ）〔県大会 準優勝〕、80kg級：柏木 大吾（１Ｌ）〔県大会 準優勝〕、**《レスリング部／男子グレコローマンスタイル》**51kg級：圓山 礼心（２Ｌ）〔県大会 準優勝〕、65kg級：飯山 福斗（３Ｌ）〔県大会 優勝〕、80kg級：堤 大智（３Ｋ）〔県大会 優勝〕、**《レスリング部／女子フリースタイル》**57kg級：今井 七緒（２Ｋ）〔県大会 優勝〕、62kg級：直井 詩空（２Ｋ）〔県大会 優勝〕、50kg級：井田 彩夏（１Ｋ）〔県大会 優勝〕、**《剣道部／男子個人》**増田 篤豊（３Ｊ）〔県大会 第５位〕、佐々木 伊織（３Ｈ）〔県大会 第５位〕、**《剣道部／女子個人》**大野 夏鈴（２Ｌ）〔県大会 第３位〕、石原 彩伽（３Ｌ）〔県大会 第３位〕、小山 珠代（２Ｈ）〔県大会 第５位〕、**《アーチェリー部／男子個人》**長瀬 楓（３Ｋ）〔県大会 優勝〕、浅尾 拓泉（３Ｋ）〔県大会 第３位〕、船渡 春希（３Ｋ）〔県大会 第７位〕、岡崎 李玖（２Ｉ）〔県大会 第10位〕、**《陸上競技部／男子》**１００ｍ：大野 和真（３Ｊ）〔県大会 優勝〕、１５００ｍ：坂上 颯（３Ｋ）〔県大会 準優勝〕、２００ｍ：山下 誓己（３Ｌ）〔県大会 第４位〕、４００ｍ：小笠原 悠太（３Ｉ）〔県大会 第４位〕、８００ｍ：坂上 颯（３Ｋ）〔県大会 第３位〕、５０００ｍ：日古見 那由他（３Ｊ）〔県大会 第３位〕、４００ｍＨ：小笠原 悠太（３Ｉ）〔県大会 第３位〕、３０００ｍＳＣ：森本 欽也（３Ｋ）〔県大会 第４位〕、３０００ｍＳＣ：白川 遼（３Ｌ）〔県大会 第５位〕、４×１００ｍリレー：チーム〔県大会 第４位〕、**《陸上競技部／女子》**走幅跳：櫻野 双葉（３Ｌ）〔県大会 優勝〕、三段跳：櫻野 双葉（３Ｌ）〔県大会 第４位〕、砲丸投げ：蒲 結月（１Ｈ）〔県大会 第５位〕、３０００ｍ：田中 千晶（２Ｇ）〔県大会 第６位〕

そのほかにも、一昨年度全国制覇を達成した情報ビジネス部は、今年も全国制覇を目指し、頑張っています。また、ウインドアンサンブル部も県大会、東海大会、さらに全国大会を目指して頑張っています。硬式野球部は、７月５日に甲子園予選開会式を迎え、このほかにも、多くの部が県大会・地区大会で全力を尽くしており、その努力と成果は西高生として非常に誇らしいものです。今後もそれぞれの目標に向かって努力を続けてください。どの部活動も大変頑張っており、その努力の成果をすべて掲載したいのですが、紙面の都合上、紹介できないことをどうかお許しください。

本校のキャッチフレーズは「夢かなえる」そして「生徒が自慢の高校」です。誇らしい生徒をより輝かせるために、生徒のそれぞれの夢（目標）をかなえられるために、教員一同指導して参ります。大きく変化している現代において、西高も変化、進化し続けるよう、努力、研鑽して参りますので、保護者の皆様方には、より一層のご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

「夢へ 羽ばたけ」

1年保護者　古田 幸実

息子と初めて高山西高校を訪れたのは、中学3年生の夏のオープンキャンパスでした。そこで先輩や先生方の話を聞き、私たち両親はこのような環境で高校生活を送ることができれば、その後の進路も大きく変わるのではと感じました。

その一方で志望校を決めきれない息子は、中学の担任の勧めで、数学検定対策講座に参加させていただきました。そして、授業の面白さや解けない問題が解けていく楽しさを実感し、この先生たちの授業を受けてみたいという気持ちが芽生え、高山西高校を受験することに決めました。その後も一日入学や相談会に参加することにより、勉強に打ち込める環境で高校生活を送ることへの期待が高まっていきました。

息子には脚の持病があり、運動制限があるため、中学校ではバスケットボール部のマネージャーとして部活動に関わってきました。運動が制限されているなかで、みんなをサポートしながら共に勝利を目指して取り組んできた結果、自分のためだけではなく周りのために動けるようになりました。みんなと同じように運動することができない悔しさや寂しさ、我慢しなくてはいけないことはたくさんありましたが、そのような経験を乗り越えることで忍耐強さも身につけることができました。部活動を通して、どんなことにも前向きに取り組む力が身についたと思います。

高校に入学して3か月が過ぎ、少しずつ生活にも慣れてきました。バスを利用することにより片道2時間近くかかる通学は決して楽なものではありませんが、中学で養った忍耐強さもあり、弱音をはくことなく学校に通っています。目先のことではなく、将来の夢に向かって進んで行く息子が強くなったことを実感し、毎日元気に送り出してあげること、時には学校まで迎えに行ってあげることなどを通じ、親としてサポートしてあげたいと思っています。

同じ中学からの同級生はほとんどいないため、息子に「友だちできた?」と聞いた時、先生から「友だちはつくるものではなく、ともに切磋琢磨しながら目標に向かって努力していくなかで自然にできるものだ」といった話があったことを聞きました。夢や目標は違っても、それぞれが努力を積み重ね、3年後には素敵な仲間になっていて欲しいと思います。

もちろん目標に向かって進んで行くなかで、時には壁にぶつかることがあるかもしれませんが、その経験が心を強くし成長に繋がっていくでしょう。

私たち家族はいつだって、あなたの一番の支えであり、あなたを応援し続けます。自分の夢に向かい、焦らずに一歩ずつ前に進んで行ってください。そして、今後の人生に生かしていけるような経験を、この高山西高校で積み重ねてください。

「剣道に打ち込んで、「てっぺん」を目指して」

2年保護者　大野 雅之

双子の大野温史・夏鈴は、剣道部2年生の夏を迎えております。2番目の兄の影響で、双子ともに年中さんから始めた剣道。地元道場の稽古は、1度も休まず、剣道に打ち込みました。

振り返れば、小学校1年の夏のこと。中学生の兄と西高校に行く機会があり、そこで初めてお会いした前川先生から、「剣道やっているんだって、西高の練習に来いよ!」と笑顔で声を掛けていただき、帰りの車内で、「いつ稽古に行けばいいんやろう?」と2人が真剣な顔で話し合っていたことが思い出されます。

出場機会が増える高学年にかけて、コロナ渦で大会、稽古の中止が続きました。そんな中、2人はＹｏｕＴｕｂｅで剣道の練習動画を探してきて、家でできる素振りや稽古を行い、中学時代は何度も西高校に稽古にいかせて頂きました。

さまざまなご縁をいただき、入学を決めた高山西高校。早々、前川先生から「高校と中学の剣道は全然違いますから、時間がかかります。」とのお話をいただき、その言葉通り、2人とも夏の合宿を超える頃まで、これまでの自分の剣道を見失う程に苦しい時期を過ごしたようです。

それでも、秋以降の試合では、少しずつ結果が出せるようになりました。練習後、家に帰ってくると、体は勿論ですが、「考える剣道で頭が疲れた。」と言うようになりました。そんな中、毎日、綾先生に提出している「剣道ノート」は、自分の現状とこれからの剣道について、整理整頓できる機会を頂いている上に、詳細なコメントを頂き、本当に本人達の心の支えになっています。

直近の東海総体では、女子団体が第2位、男子団体が第3位という成績を上げています。

新チームがスタートしてから、様々な試練がありましたが、夏の大会に向けては日に日にチームの勢いを感じ、私も高校剣道の醍醐味を味わうことが出来ました。

大野双子も、剣道がもっと上手くなる為に課題がたくさんありますが、温史の剣道ノートに書いてある「いくぜ、てっぺん!」を実現する為に1日1日を大切に、努力を積み重ねていってほしいと思います。

最後に、前川先生、綾先生はじめ西高校の先生方、保護者の皆様、諸先輩、後輩や仲間たち、本当に数多くの方々に支えられ、とても恵まれた環境で剣道、高校生活をさせていただいていることに、心より感謝を申し上げます。

剣道に打ち込んで、「てっぺん」を目指して、悔いのない高校生活を全うしてほしいと思います。

「西高校を選んで」

3年保護者　谷口 怜子

　息子が高山西高校に入学して、あっという間に2年3ケ月という月日がたちました。中学生の時はとにかく勉強をするのが嫌で、何度息子と衝突したかわかりません。夢もやりたいことも特になく、勉強する目的が見出せなかったのも原因かもしれません。友達と遊ぶことが大好きで、帰宅後も自転車に乗って出かけたり、オンラインゲームをしたりと、遊んでばかりで家で勉強をする時間は本当に短いものでした。将来のことを考える際も「勉強をするのが嫌だから。」という理由で、高校卒業後は就職することを考えていました。

　大学に進学しないのであれば、最後に高校生活で何かに打ち込んでほしいと私は願い、息子に西高校を勧めました。私の中での西高校は、勉学または部活動に一生懸命で遊ぶ暇がないというイメージがあったからです。また、学校側のサポート体制が手厚いという話も聞いていたので、1人では勉強しない息子でも西高校で勉強するようになるんじゃないか、という期待もしていました。そんな中オープンキャンパスに参加し、実際に西高校の雰囲気にふれ、自分から「俺、西高校に行きたい。」と志望校を決めたのでした。

　無事合格した後、縁あって特進ークラスに進むことを決めましたが、勉強嫌いの息子に勉強漬けの高校生活を送れるのだろうか、ずいぶん心配しました。また気のあう友達ができるかどうかも心配でした。親以上に本人の不安は大きかったようで、入学式後のホームルームでがちがちに緊張していた息子の姿は今でも鮮明に思い出せます。しかし、それは杞憂でした。すぐクラスメイトと仲良くなり、毎日友達の話をしてくれました。もともと社交的な性格なので、他のクラスや先輩とも仲良くなっていました。勉強の方も、仲良くなった友達と一緒にやることで中学の時ほど苦ではなくなったようです。今まであまり勉強していなかった分勉強するようになったら成績が上がり、勉強がおもしろいと言うようになりました。（ツライと嘆いていることの方が多いですが）

　西高校は息子に合っていたようで、入学前の不安が嘘みたいに毎日楽しそうに通っています。しかし楽しく過ごせているのは、先生方や友達に恵まれたからだと思っています。勉強も1人ではここまで取り組めなかったでしょう。やらなければいけない環境の中、一緒に取り組める友達がいること、支えてくれる先生の存在があること、それが息子の力になったのだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そんな感謝の気持ちを忘れずに、西高校に入学して見つけた目標に向かって、残りの高校生活を楽しく悔いのないよう過ごしてほしいです。

育友会活動報告
〈 2025年度 前期（4月～8月）〉

4月 7日／育友会入会式
新1年生170名とその育友会員を迎える。

4月16日／第１回育友会役員会

5月 7日／岐阜県私立高等学校保護者連合会
第１回常任幹事会　岐阜・十八楼

5月 8日／育友会総会

5月30日／岐阜県高等学校PTA連合会定期総会
オンライン会議

6月 4日／岐阜県私立高等学校保護者連合会通常総会
岐阜・十八楼

7月～8月上旬／私立高等学校補助金増額署名依頼

「自信を持って」

1年L組　松下 結佳

私は中学一年生のとき、吹奏楽部に入部し、初めてフルートに触れました。音が出ず、苦しい時期もありましたが、仲間と一緒に頑張った三年間はとても楽しく充実した日々でした。高校でも吹奏楽を続けたいと思い、高山西高校に入学しました。

入学当初は慣れない環境に戸惑い、勉強と部活の両立に追われて楽しむ余裕はありませんでした。そんな中、私のやる気を燃え上がらせた出来事があります。

それは、ウインドアンサンブル部でのコンクールに向けたオーディションです。たくさんの方にソロを聞いてもらえる機会はなかなかないので、少しでもいい演奏ができるよう必死で練習しました。しかし、いくら練習しても納得のいく演奏が出来上がらず、焦っているうちにも、オーディションの日は近づいてきました。先輩方や同級生たちを意識して、とても緊張してしまいました。私はそこで中学の頃を振り返りました。あの頃の私はもっと楽しく練習していたと思いました。必死になるあまり、私は大切なことを見逃していた事に気がつきました。当時先生に一番大切にしましょうと教えていただいたことは、「挨拶」や「返事」「感謝」など、普段の何気ないことの積み重ねでした。小さなことを大切にすることで、奏者としても大きく成長できると知りました。誰かと競い合い、高め合うこともちろん良いことで、大切であると思います。しかし、最も大切なのは結果にたどり着くまでの過程でどれほど積み重ねてきたかだと私は思います。実際オーディションでは、自分の納得の行く演奏からはほど遠かったですが、焦っていた時期と比べれば良くなっていたと思います。「演奏と日常はつながっている」これは、部活だけでなくいろいろなことに当てはまると思います。私はこれからの高校生活、部活も勉強も頑張りたいです。

うまくいく近道は、一見関係のないような普段の生活を丁寧に、当たり前のことを当たり前にです。焦ったときこそ遠回りをして、自分の自信を培っていきたいです。

「仲間との出会いの大切さ」

2年F組　角川 瑞葉

西高校の学習に焦点を当てた特進ークラスで過ごす毎日は、同じことの繰り返しのように感じられることがあります。

そんな日々の中で、私にとって心のオアシスのような存在だったのが「探究飛騨」の活動でした。活動の始まりは、乗鞍青少年の家の方々が企画してくださった「飛騨人との出会い」というプログラムでした。そこで、飛騨地域で活躍されている多くの方々と交流する機会をいただき、魅力あふれる企業がたくさんあることを知りました。その中で、私は「株式会社ヒダカラ」さんに強く興味を持ちました。ヒダカラさんとの出会いが、私たちの探究活動のスタートとなったのです。

インタビューのためにヒダカラさんを訪問させていただいた際、事務所の至るところに廃材が活用されていることを教えていただきました。それを知った私たちは、「廃材でも、こんなに素敵なものができるんだ」と大きな衝撃を受け、廃材の可能性に光を当てたいと強く感じるようになりました。探究のテーマが定まり、必要な資料を集め、プレゼンテーションの作成を始めました。グループ内で悩んだり、分からないことが出てきたりすることもありましたが、先生方のアドバイスや仲間との対話を通して、なんとか形にすることができました。しかし、そんな私たちの前に大きな壁が立ちはだかりました。それは、地区大会に私ひとりで出場しなければならなくなったことです。3人で活動してきたグループのうち、他の2人が短期留学のために出場できなくなってしまったのです。3人で築き上げてきたものを1人で発表することに、私は大きなプレッシャーを感じていました。そんなとき、同じグループの2人が「結果にこだわらなくてもいいから、頑張って」と温かい言葉をかけてくれました。他のグループの仲間たちも、「メンバーが減って不安だけど、一緒に頑張ろうね」と励ましてくれました。たくさんの仲間の支えのおかげで、私は本番で自分の力を出し切ることができました。そして、その結果、全国大会への切符を手にすることができたのです。全国大会では、3人揃って出場することができました。適度な緊張感と安心感の中で、私たちは自信を持って発表に臨むことができました。

結果は銀賞と、決して満足のいくものではなかったかもしれませんが、全国の高校生と交流できたことや、東京という大きな舞台に3人で立てた経験は、私にとってかけがえのない宝物となりました。

この探究活動を通して、飛騨について深く知ることができただけでなく、人との関わりの大切さも学ぶことができました。2年生でも探究活動は続くので、1年生で得た学びを活かし、よりよい探究ができるよう努力していきたいです。

「悔しい気持ち」

3年K組　今井 庄一郎

私には夢があります。それは小学校から始めたハンドボールで全国大会に出場することです。そして、その夢を叶えるために高山西高校に入学しました。

私がハンドボールを始めたのは、小学校の時に姉たちのプレーしている姿を見て「かっこいい」と思ったからでした。全国大会出場という目標ができ、仲間とともに練習に励んできました。しかし、小学校でも中学校でもあと一歩のところで出場を逃し、悔しい思いをしてきました。そのため高山西高校に進学し「全国大会に出場したい」と強く思うようになりました。

しかし、現実は厳しいものでした。学業では授業の進度は早く、内容も難しく大変でした。さらに、部活動でも走り込みや体幹作りなど、小中学校のときの練習とは違う辛い練習があり、想像以上に困難な毎日を送ることになりました。また、帰宅時間も遅く、疲労感は今までの倍以上に感じました。そのためすべきことをこなすだけの毎日を送っていました。

先輩の引退後、私はキャプテンになり、全国選抜大会の県予選に臨みました。しかし、結果は県2位となり、また東海大会でも思うような結果が得られず、全国への切符を逃しました。この段階で自分が出場できる全国大会はインターハイのみとなりました。試合後は、優勝するために自分には何が足りなかったのかを考えました。メンバーに対する声掛けや、自分自身の練習に対する姿勢、日常生活における行動などを見つめ直しました。そして、キャプテンとしての資質が得られるよう、日々の生活で自分が目指すキャプテンになることを意識した行動をするように心がけるようになりました。

そしていよいよインターハイ予選を迎えました。どの試合も決して楽に勝てたわけではありませんでしたが、不安はありませんでした。迎えた決勝戦の前半は1点ビハインドで折り返しました。しかし、後半に入り自分自身「後半バケモノになる！」という気持ちで向かいました。その結果、優勝することができ、念願の全国大会出場の夢が叶いました。この優勝は部員全員で勝ち取った優勝です。インターハイでは仲間とともにベスト8以上を目指し、励んでいきたいです。

私は仲間、家族、監督をはじめ、周りの方々の支えがなかったらここまでこられていません。私をキャプテンとして受け入れてくれた仲間、どんなときも話を聞いてくれたり部活動で辛いときに馬鹿なことで笑ったり遊んでくれた友達、遠い会場でも応援や学業などでサポートしてくれた担任の先生、朝早くから夜遅くまで送迎をしてくれたり、どんなときも寄り添ってそばにいてくれた両親に感謝をしながら生活していきたいです。

令和7年 部活動速報〈前期〉

各種全国大会

●JOCジュニアオリンピックカップ大会 全日本ジュニアレスリング選手権大会
男子個人グレコローマンスタイル71kg級　堤(3K)　優勝→世界大会出場

東海高等学校総合体育大会

●レスリング

男子フリースタイル	71kg級	堤(3K)	第１位
男子グレコローマンスタイル	51kg級	圓山(2L)	第３位
	80kg級	堤(3K)	第１位
女子フリースタイル	62kg級	直井(2K)	第３位
	50kg級	井田(1K)	第２位

●剣道　男子団体　第３位　女子団体　準優勝
女子個人　大野(2L)　ベスト８

●男子バスケットボール　第３位

●陸上　男子　３０００ＳＣ　森本(3K)　第８位

岐阜県高等学校総合体育大会

●レスリング
男子学校対抗戦　第３位

男子フリースタイル	65kg級	飯山(3L)	第１位
	71kg級	堤　(3K)	第１位
	51kg級	圓山(2L)	第２位
	80kg級	柏木(1L)	第２位
	51kg級	竹腰(1H)	第３位
男子グレコローマンスタイル	51kg級	圓山(2L)	第２位
	65kg級	飯山(3L)	第１位
	80kg級	堤　(3K)	第１位
女子フリースタイル	57kg級	今井(2K)	第１位
	62kg級	直井(2K)	第１位
	50kg級	井田(1K)	第１位

●剣道　男子団体　準優勝　女子団体　優　勝
男子個人　増田(3J)　第５位　佐々木(3H)　第５位
女子個人　大野(2L)　第３位　石原(3L)　第３位
小山(2H)　第５位

●ハンドボール男子　優　勝

●男子バスケットボール　準優勝

●女子バスケットボール　第５位

●アーチェリー　男子団体　優勝女子団体　第４位
男子個人　長瀬(3K)　第１位
浅尾(3K)　第３位　船渡(3K)　第７位
岡崎(2I)　第10位

東海総体出場

●陸上

男子	１００ｍ	大野(3J)	第１位
	２００ｍ	山下(3L)	第４位
	４００ｍ	小笠原(3I)	第４位
	８００ｍ	坂上(3K)	第３位
	１５００ｍ	坂上(3K)	第２位
	５０００ｍ	日古見(3J)	第３位
	４００ｍＨ	小笠原(3I)	第３位
	３０００ＳＣ	森本(3K)	第４位　白川(3L)　第５位
	４×１００ｍＲ	第４位	
女子	走幅跳	櫻野(3L)	第１位
	三段跳	櫻野(3L)	第４位
	砲丸投	蒲(1H)	第５位
	３０００ｍ	田中(2G)	第６位

各種大会

●飛騨地区高等学校野球優勝大会　優　勝

●国際ソロプチミスト高山 クラブ ユース・フォーラム
山下 凛央さん(1F)　最優秀賞
→日本中央リジョン主催「ソロプチミスト ユース・フォーラム2025in名古屋」出場

西高体育祭

令和7年 6月17日㈫ 開催

スローガン 『翔（かける）』

赤団

団長
飯山 福斗
（3L）

高校最後の体育祭では赤団の団長を務め、応援・マスコット・総合の三冠を達成することができました。それぞれの部門で結果を出せたのは、団員一人ひとりが力を合わせてくれたおかげです。団全体の仲もとても良く、良い雰囲気の中で準備や本番を迎えられたことが何より嬉しかったです。私自身、怪我をして一時思うように動けない時期もありましたが、その際には多くの仲間が支えてくれました。改めて「みんなでつくる行事の素晴らしさ」を実感する機会となり、忘れられない思い出になりました。これからの学校生活もみんなで楽しんでいきます。

青団

団長
野原 大誠
（3I）

青団の団テーマ「ブルーロック」に沿って挑んだ今回の体育祭は、自分自身の限界に挑み、個の力を高めながらもチームとしての団結力を大切にする、まさに熱い戦いでした。「勝利への執念」をテーマに、全員が本気で取り組む姿はまるでブルーロックの世界そのもので、一人ひとりが主役として輝いていました。勝ちたいという気持ちがぶつかり合いながらも、最後には互いを認め合い、強い絆が生まれたことに大きな感動を覚えました。この体育祭を通して学んだ挑戦する姿勢と仲間の大切さを、今後の学校生活にも活かしていきたいです。

黄団

団長
垣内 蒼太郎
（3F）

私は今年の体育祭で、黄団の団長を務めました。最初は不安もありましたが、仲間と一緒に目標に向かって努力する中で、たくさんの学びと感動がありました。応援練習では意見がぶつかることもありましたが、何度も話し合いを重ねることで、団としての絆が深まっていったのを感じました。本番では、全員が全力を出し切り、一体感のある素晴らしい演技と競技ができました。みんなの頑張る姿を見て、団長として本当に誇らしく、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

この経験は、これからの学校生活や将来にもきっと役立つと思います。黄団のみんな、本当にありがとう！

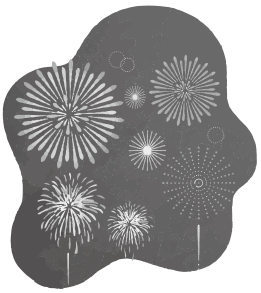
編集後記

まず、育友会報の発行に際して、ご多忙の中、原稿を執筆いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

今年の梅雨はいったいどこへ行ってしまったのかと考えていたところから、暑い日々が続いております。そんな暑さにも負けず、生徒たちは学校生活を生き生きと楽しんでおります。

今後とも生徒たちが生き生きと過ごせる学校生活を目指して参ります。

（文化委員長）



西高祭

令和7年 9月3日 開催

テーマ

きずな
繋絆

夏休みが明けるとすぐに西高祭がやってきます！体育祭期間を通して、全校の縦のつながりが強くなったと思います。縦のつながりが強くなった今、西高祭を成功させるためにみなさんに求められるものは、横の繋がりと生徒一人一人の自主性です。一週間という短い取り組み期間の中で、一人一人が積極的に行動し、クラスで一丸となって取り組み、自主性や横のつながりを高め、最高の西高祭を一緒につくっていきましょう！今からみなさんのステージ発表や、クラス展示がとても楽しみです！